
ネット依存症

時音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネット依存症

【Nコード】

N5474B

【作者名】

時音

【あらすじ】

学校を辞めた美奈。友達との距離ができていく中、エリからもらった1つのサイト、そこで自分の居場所を見つけようとする。

1：私の居場所

私の生活に携帯電話が入り込んできたのは、今から4年ほど前になるだろうか。

その頃の私は高校生で、親に携帯代を支払ってもらっていた為、メールが主な連絡手段になっていた。

携帯電話を持ち始めて、学校に行かなくても友達と連絡が取れる事もあり、この頃から徐々に高校を休みがちになってきていたのかもしれない。

そして1年が経ち、私は高校2年で学校を辞めていた。

友達と会うことだけを楽しみにして学校に行っていた私は、携帯電話の力によって【学校に行く意味】を見失ってしまったのだ。

それから近所のコンビニでバイトをしてヒマを潰していた。バイトが無い日は、友達とカラオケやゲームセンターなどで遊ぶこともあったが、それも初めのうちだけだった。

学校に行っていない私と学生の彼女達。あれだけ毎日同じ空間にいたのに、徐々に離れていってるのが分かった。そして私は、一人になっていくのを感じ始めていた。

2月半ば。

『美奈も学校に行っていたら、もうすぐ3年生だったのね』

美奈はムツとなって母親美佐子を睨む。

『そればかりじゃん！私は学校なんてどーでもいいの！』

美奈は12月に学校を辞めて、バイトだけの生活を送っていた。

美奈の父親は、美奈が10歳の時に他界し、美奈と美佐子の2人暮

らしなのだ。

『美奈最近バイトの日数の減ったんじゃないの？外にもあんまり出てないようだし。以前は友達と毎日のように遊びに行ってたじゃない・・・』

『みんな受験とかで忙しいんじゃないの？メールしても返ってこないし』

美奈が最近毎日のように家にいる事を、美佐子は心配に思っていた。以前の美奈ならば、どこで何をしているのかも分からないほど友達と遊びまわっていたのだ。

美奈から【学校に行く意味】を奪った携帯電話も、最近では全く鳴ることはなかった。学校で毎日一緒にいた友達からの連絡も、ここ1ヶ月ほど全く無い。それどころか、美奈からメールをしても返信すら返ってこなくなっていた。自分は今みんなにとって過去の存在になってるのか、そんな事を悩んでいるまさにその時だった。

ブーブーブーツ

最近では全く聞くことのなかったバイブ音が部屋中に鳴り響く。ソファーに寝転がっていた美奈は、慌てて起き上がる。サブディスプレイで差出人の名前を確認する美奈。

『エリだ・・・』

エリとは高校1年で同じクラスになり、いつも行動を共にしてきた1番の友達だった。

最近も何度かエリに電話をしたものの、留守番電話になりエリからかかってくる事はなかった。美奈は恐る恐るメールを見ることにし

た。

【美奈！ごめんね忙しくて連絡できなかったんだ！お詫びと挨拶やーなんだけど、超おもしろいサイト見つけたからあげるよ！！ヒマあったらみて URL/1897333.fmw・・・】

そこにはサイトのURLが書かれていた。

サイトなど一切した事がない美奈にとっては、特別興味の湧くものでもなく、どちらかという遊びの誘いではないのがガツカリだった。しかし特にする事もなかった為、エリのメールを眺めながら美奈はそのURLにカーソルを合わせて決定ボタンを押していた。

なんだこれ・・・

まず思ったのはそれだった。

【ブルーU】と書かれたそのサイト、出会い系の掲示板のようだった。

出会い系などももちろん利用した事もない美奈はすぐに電源のボタンを押そうとした。

しかし、美奈の見慣れない文字が1つ目に付く。

『チャット・・・？聞いたことあるけど・・・』

チャットと書かれた赤い文字が美奈をそのサイトに留まらせる事になる。

そこにカーソルを合わせ、決定ボタンを押す。次のページに飛ぶと、真っ黒な画面の上にたくさんのカラフルな文字が並んでいる。

ユウコさんが入室しました。

松・ユウコこんにちは！

モナ・こんにちわ〜！

ユウコ・こんにちは！私は東京に住む25歳です

光・俺も東京だよ！28歳なんだ！よろしくな

画面上で繰り返り広げられる会話。文字だけの画面に吸い込まれるように見入る美奈。

全く知らない者同士が画面上で会話をする、いわゆるチャット。これに引き込まれる若者は少なくないだろう。出会いを求めるもの、寂しさを紛らわすもの、美奈もこの画面の中の一員になりたいと心から思った。

美奈はすぐに入室と書かれた文字にカーソルを合わせて決定ボタンを押した。

するとエラーの表示がでて、先ほどの会話の画面に戻ってしまう。

【ハンドルネーム： 色： 】

と書かれているのを見逃していた。

ハンドルネームとは、ネット上での自分の名前の事だ。色は自分の名前が表示される色の事。

美奈が決めたハンドルネームは『ミナ』、色はもちろん美奈の大好きなピンクだ。そしてもう一度入室ボタンを押す。

ミナさんが入室しました。

画面上に自分の名前が書かれている。美奈はドキドキしていた。携帯電話の中で、知らない人が自分の名前を見ている、そう考えただ

けで最近の刺激の無い生活を一变できそうな気がしていた。
1分も経たないうちに、次々とミナへの挨拶の言葉が画面上に繰り
広げられていく。

松・ミナこんにちは！

ユウコ・始めましてミナちゃん

光・こんにちはw

モナ・こんにちわ〜よろしくねえ

美奈は初めてのチャットで、どうすればいいのかが全く掴めずとに
かく自分も挨拶を試してみることにした。メールを打つと同じ要領
で文字を打ち、最後に【発言】と書かれたボタンを押す。

ミナ・始めまして！チャット初めてなので全くわからないんだけど。
・いいですか？

画面上に今自分が打った文字が映し出される。ミナは興奮を抑えら
れないほどワクワクした。

それに対して知らない人たちが自分に返信してくれるという魅力に、
すでに美奈は入り込んでしまっていた。

モナ・何歳？私は20歳だよw大丈夫〜ミナ

光・俺はここ3年目なんだ！分からないことあったら何でも聞きな
よ。ミナ

松・適当に思ったままを文字にすりゃーいいんだよ ミナ

ユウコ・私も今日が始めてなの！！仲良くしてねミナちゃん

一斉に美奈への返事が画面に映し出される。美奈は目の前にいない、画面越しの相手を想像して本当に話をしているような気分になっていた。

ミナ・みなさんありがとうございます！私は17歳です！チャットってすごいですね　なんだかハマっちゃいそうです

素直に嬉しいと言うことを文章にする美奈。

モナ・若いね！私もほぼ毎日いるからいつでも来なよ！^^

『みんなが私の場所を与えてくれる。』

そんな事を思いながらチャットに夢中になっていると、後で美佐子の声がする。

『美奈！何夢中になってるの！？ちょっとおつかい行って来てくれない？』

美佐子にチャットとはさすがに言えず、チャットの中の【友達】にその事を伝える美奈。

ミナ・ごめんなさい！お母さんにお使い頼まれちゃったので・・・また来ます！！

それだけを打って電源ボタンを押してサイトを終了させた美奈。

この日を堺に、美奈のチャットをするペースは頻繁になり、1週間

も経たないうちに【ブルーU】の常連になる。美奈が見つけた唯一の居場所がそこだったのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5474b/>

ネット依存症

2010年11月14日09時20分発行